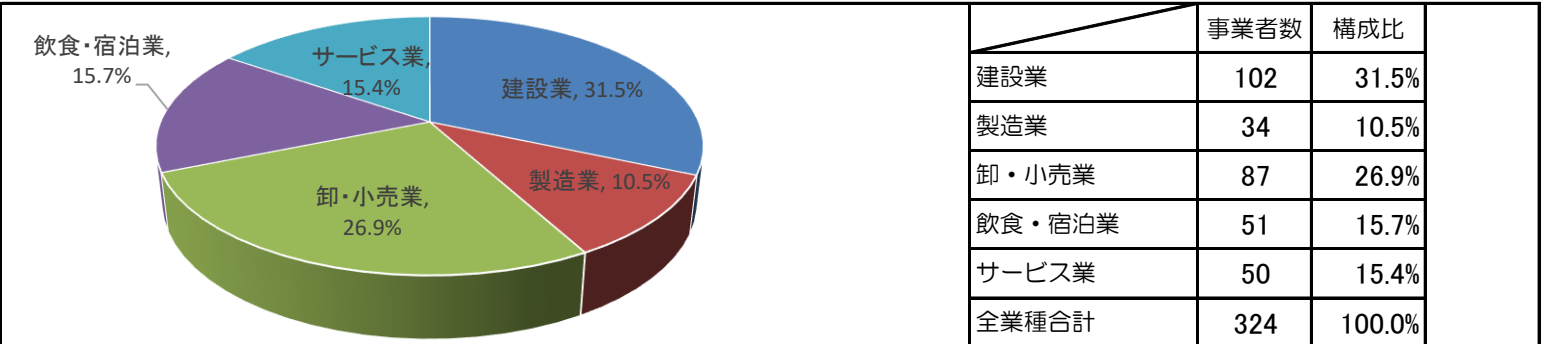


十日町市商工会地域 企業景況調査 第3四半期報告書 (H29.10.1~H29.12.31) 松代町地区

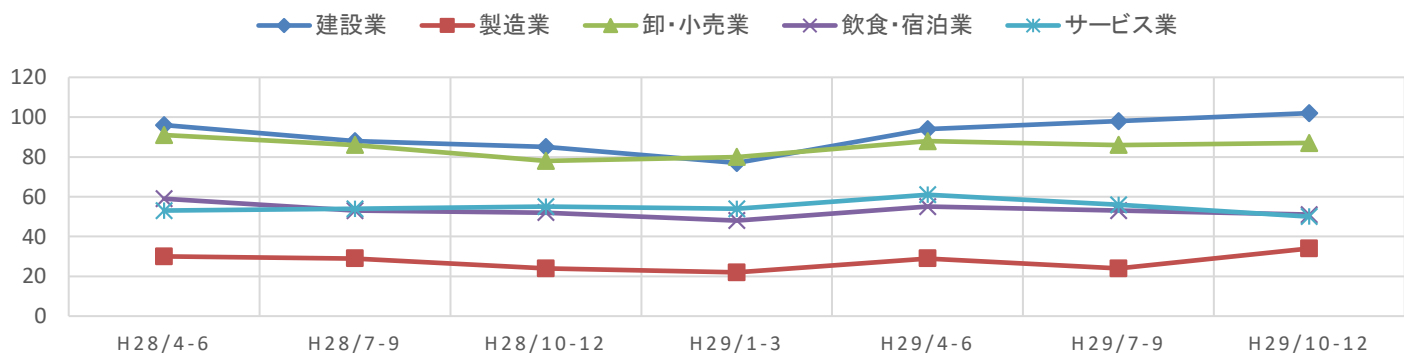
小規模事業者以外含む全事業所

◇ 調査対象事業所構成割合

<商工会地域市内全体>



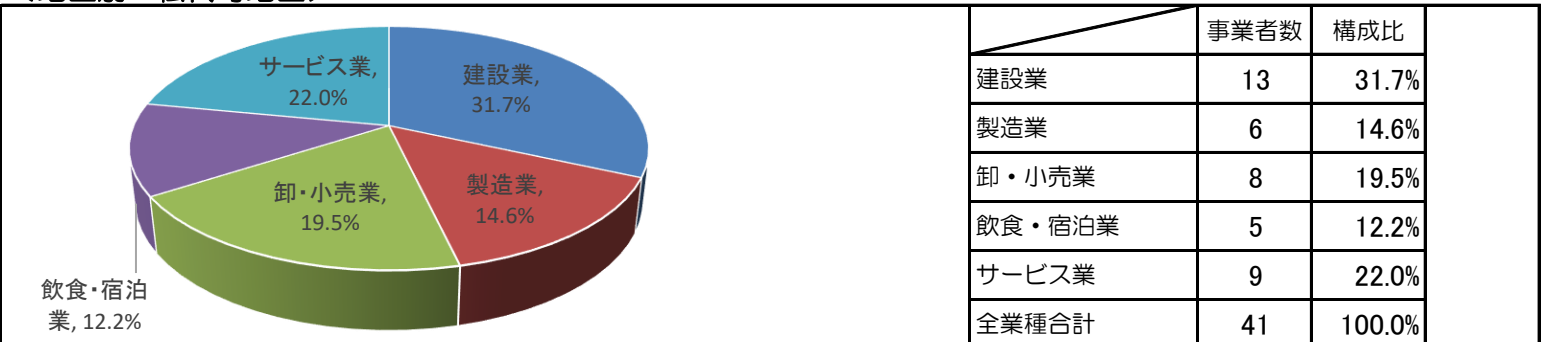
業種別調査事業所数の推移(市内全体)



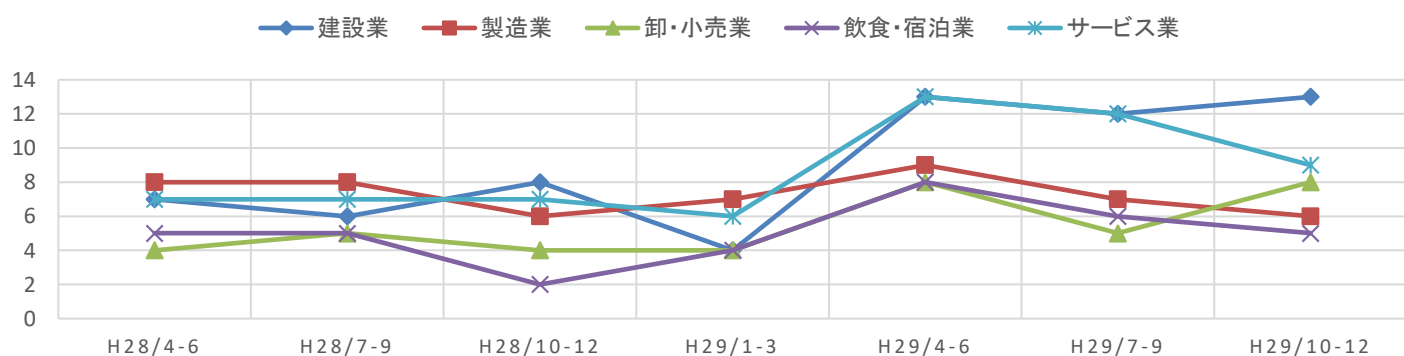
<コメント>

市内商工会地域全体の商工業者1056社の約31%からの回答を基に集計した結果である。製造業の割合が少ないものの、その他の業種に大きな偏りのない調査結果である。

<地区別：松代町地区>



業種別調査事業所数の推移(地区)



<コメント>

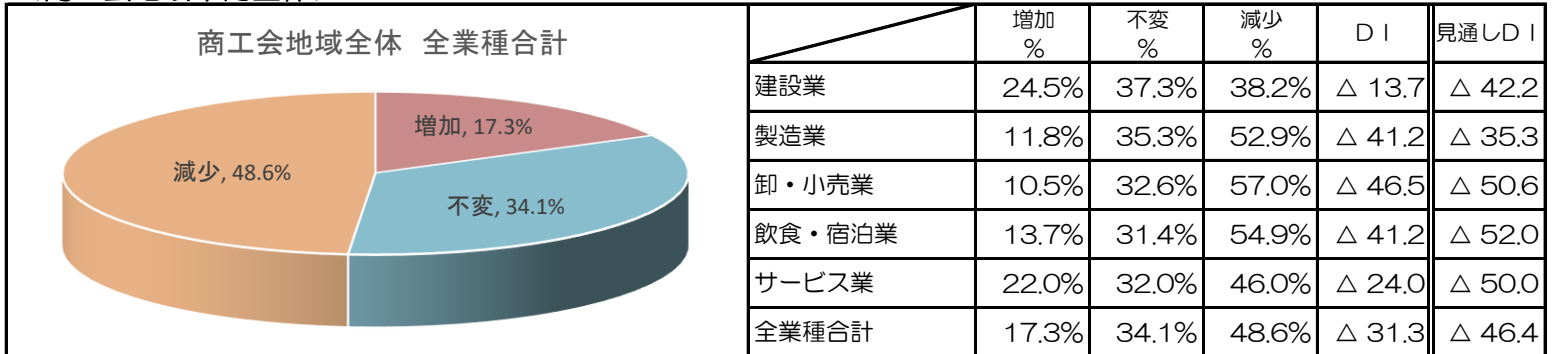
松代地区の商工業者66社に対し調査を依頼し、41社(回収率62.1%)から回答を得た。今回の調査では、サービス業の回答数が減少し、卸・小売業の回答数が増加している。

DI値（景況判断指数）＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

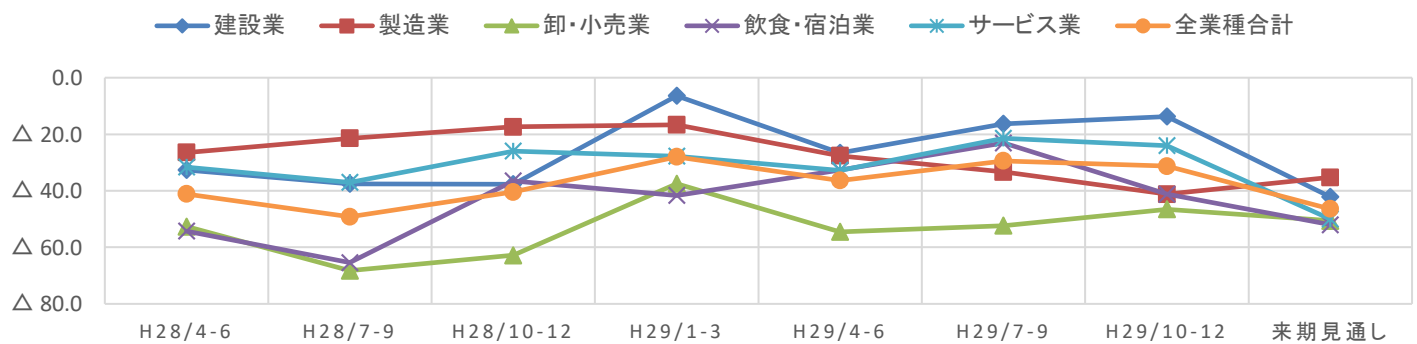
1. 売上について

・10月～12月の売上は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



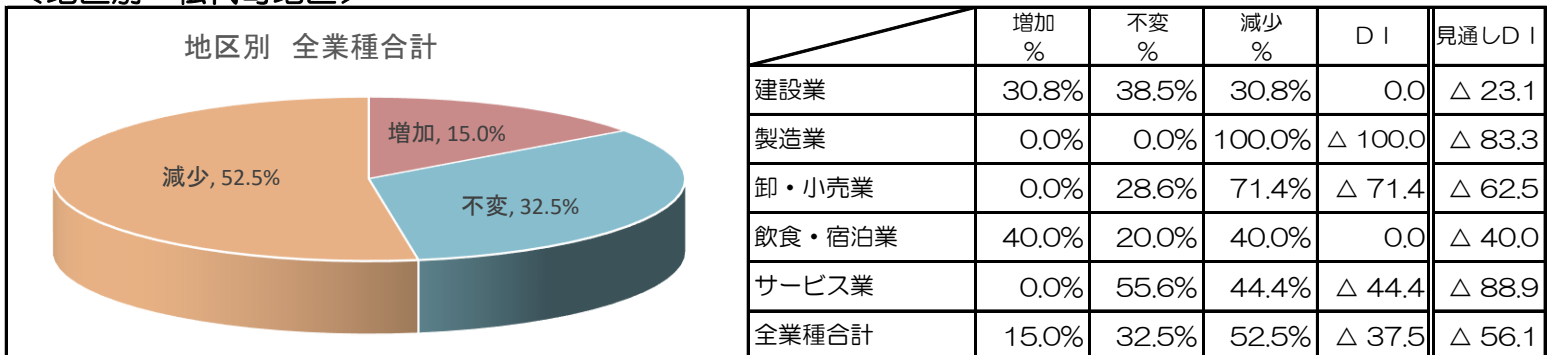
業種別売上の推移（市内全体）



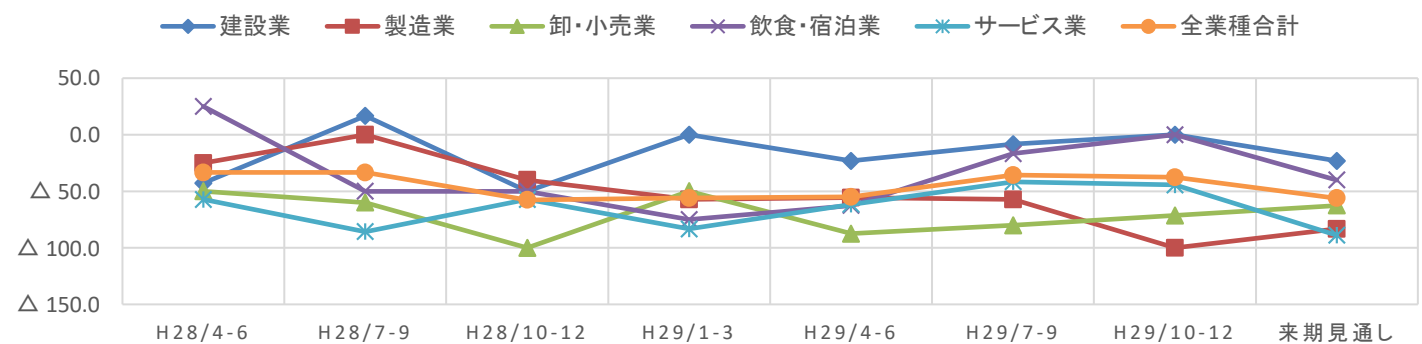
<コメント>

売上は、前年同期と比較して、全業種で31.3ポイント減少となった。依然として卸・小売業の減少が目立つ。来期見通しは、建設業においては、当地域の特性から冬季間の受注減少で例年悪化傾向となるが、製造業を除く業種で50ポイント以上悪化を予想している。

<地区別：松代町地区>



業種別売上の推移（地区別）



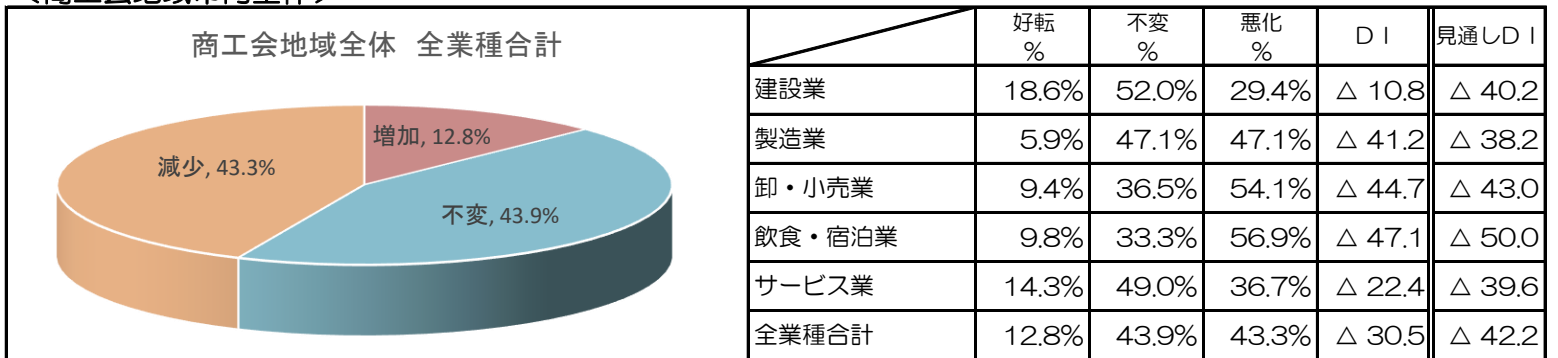
<コメント>

松代地区の「売上の推移」に対する回答は、全業種合計で△37.5ポイントとなり、前期調査と同ポイントであるが、建設業、卸・小売業、飲食・宿泊業で若干のポイント改善がみられるものの、製造業はマイナスポイントが膨らんでいる。ポイントが改善している業種でも、「増加」の回答がない業種もあり、厳しい状況が続いている。

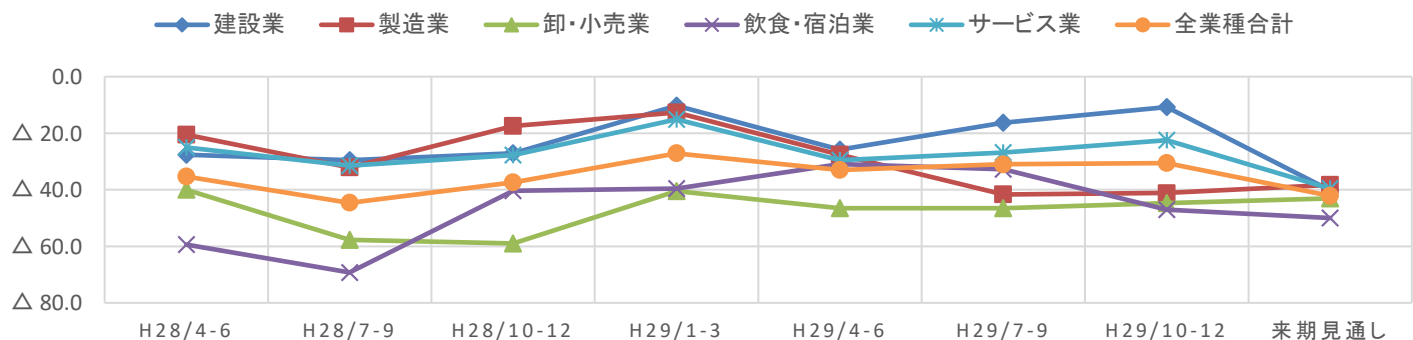
2. 採算について

- ・10月～12月の採算は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



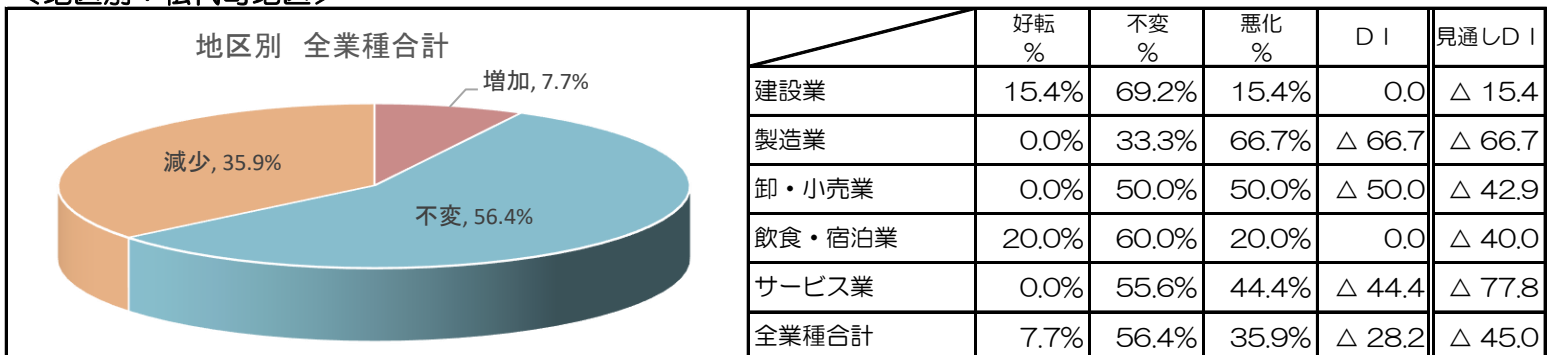
業種別採算の推移(市内全体)



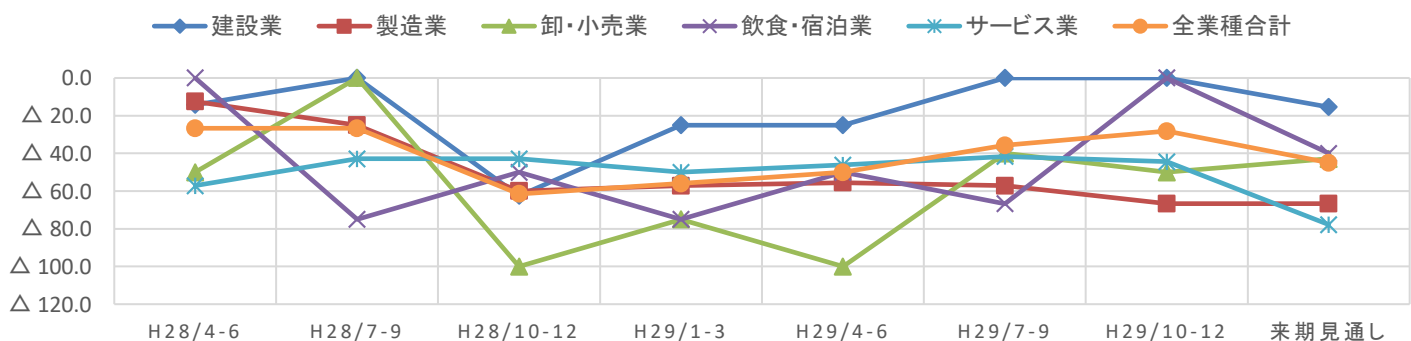
<コメント>

採算は、前年同期と比較して、全業種で30.5ポイント悪化。飲食・宿泊業と卸・小売業の悪化が目立つ。来期見通しでは、建設業は、売上予想と比例し悪化傾向であるが、全業種で42.2ポイントを予想している。

<地区別：松代町地区>



業種別採算の推移(地区別)



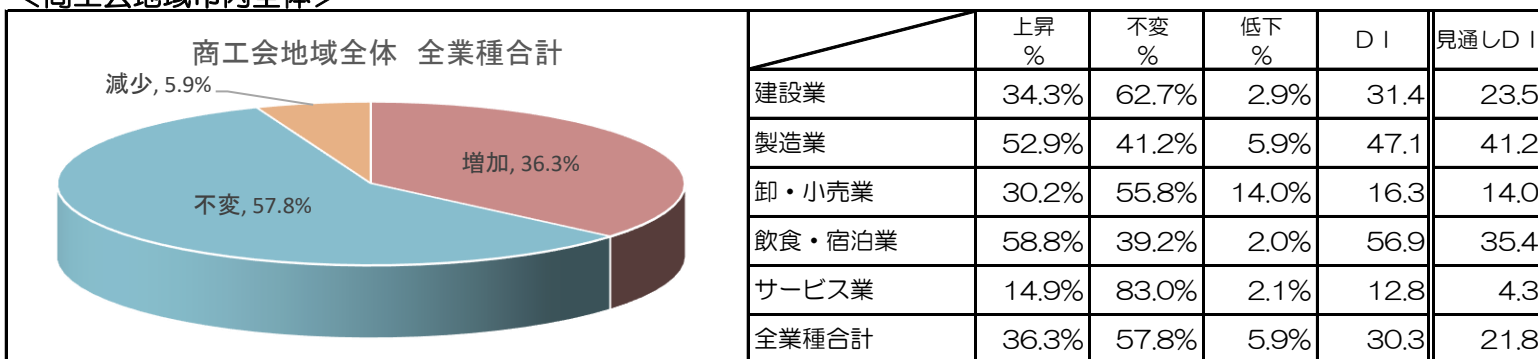
<コメント>

松代地区の「採算」に対する回答は、全業種合計で△28.2ポイントとなり、前回調査より改善傾向にある。業種別では、飲食・宿泊業で大幅にポイントが改善し、「好転」と回答している企業も出ている。しかしながら、全体的に「好転」した企業は少なく、来期の見通しにおいてもマイナス幅が大きくなっている。

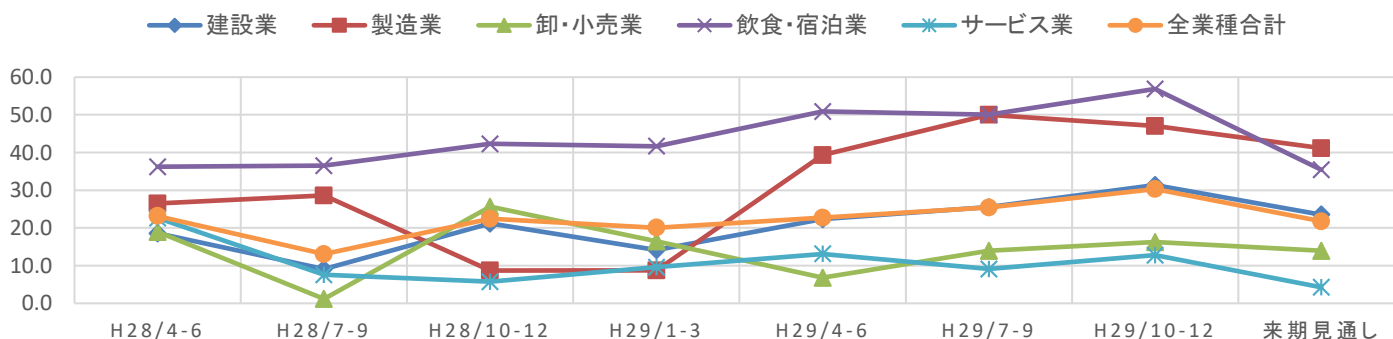
3. 仕入単価について

- ・10月～12月の仕入単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



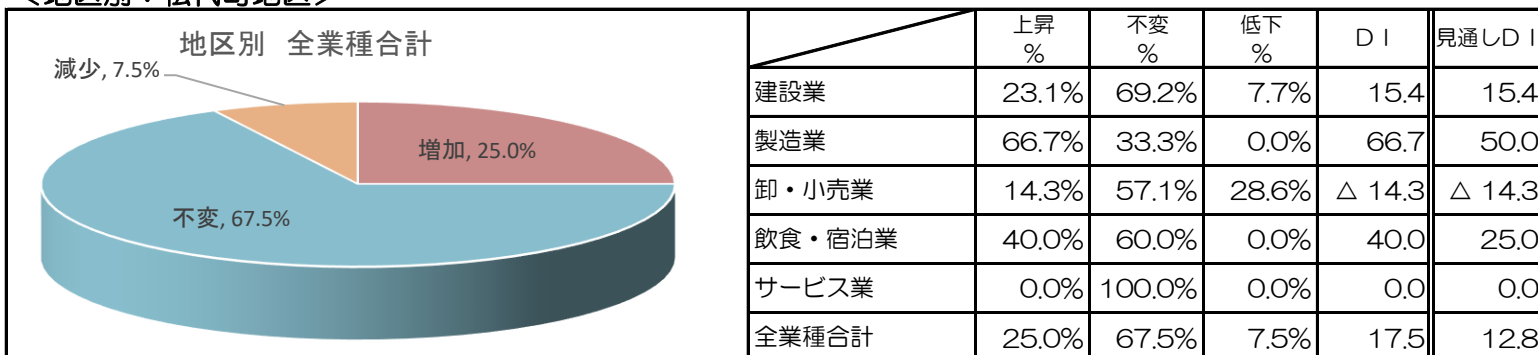
業種別仕入単価の推移(市内全体)



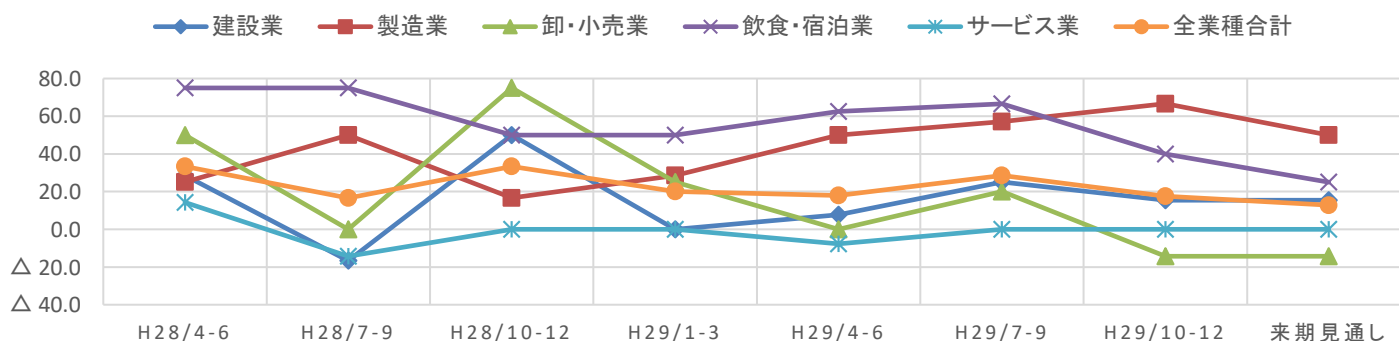
<コメント>

仕入単価は、前年同期と比較して、全業種で30.3ポイント上昇。特に、飲食・宿泊業及び製造業の上昇が目立ち、売上原価を押し上げている。来期見通しでも、若干落ち着いていくように思われるが、この傾向は変わらないと予想している。

<地区別：松代町地区>



業種別仕入単価の推移(地区別)



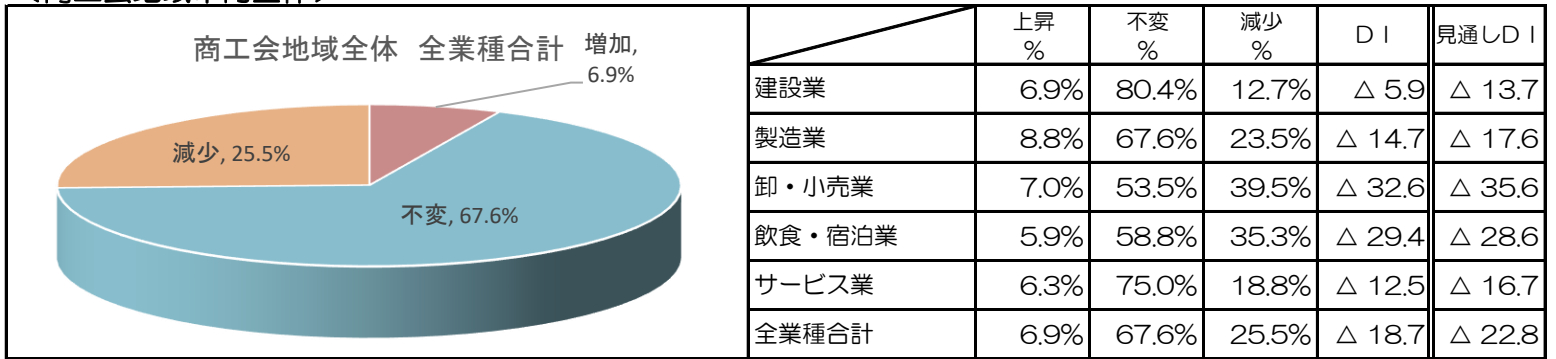
<コメント>

松代地区の「仕入単価」に対する回答は、全業種合計で17.5ポイントとなり、前期調査と比べると仕入単価の上昇に歯止めがかかりつつあると伺える。この傾向は、来期の見通しからも伺える。但し、製造業については、上昇傾向に変わりがないようである。

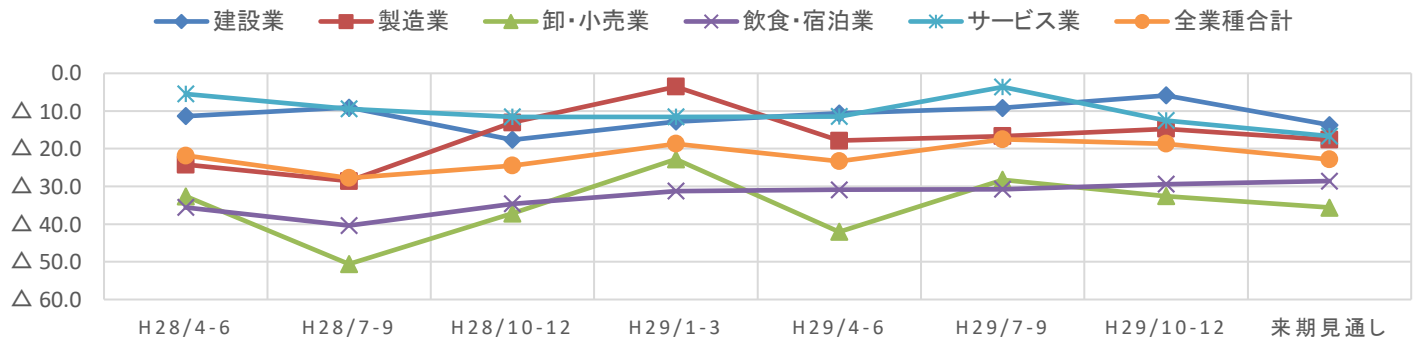
4. 販売（客）単価について

・10月～12月の販売（客）単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



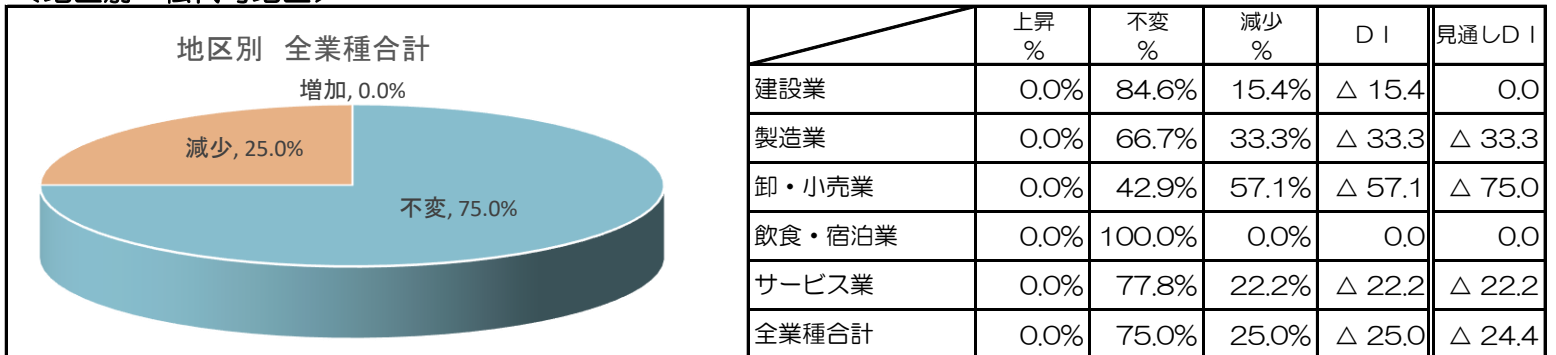
業種別販売（客）単価の推移（市内全体）



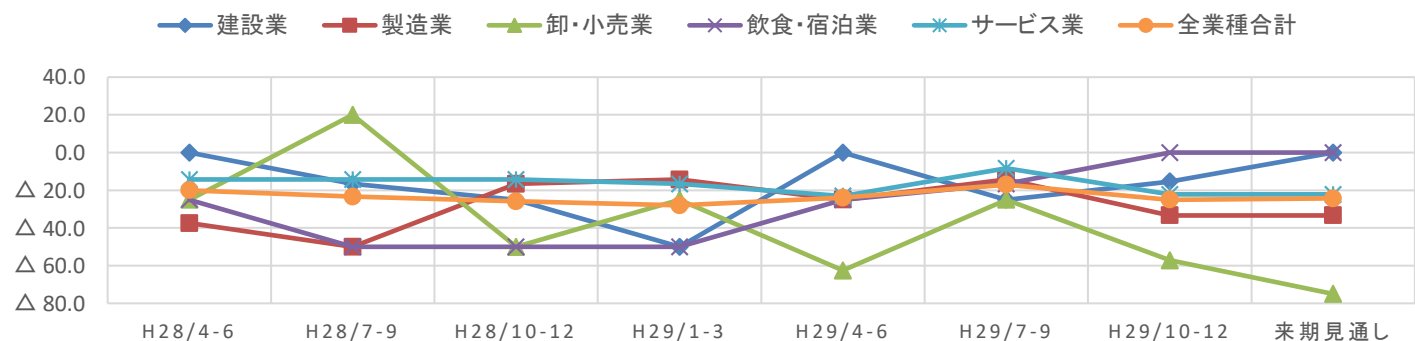
<コメント>

販売単価は、前年同期と比較して、全業種で不変基調であるが、18.7ポイント低下。来期見通しでも、全業種で低下予想をしている。

<地区別：松代町地区>



業種別販売（客）単価の推移（地区別）



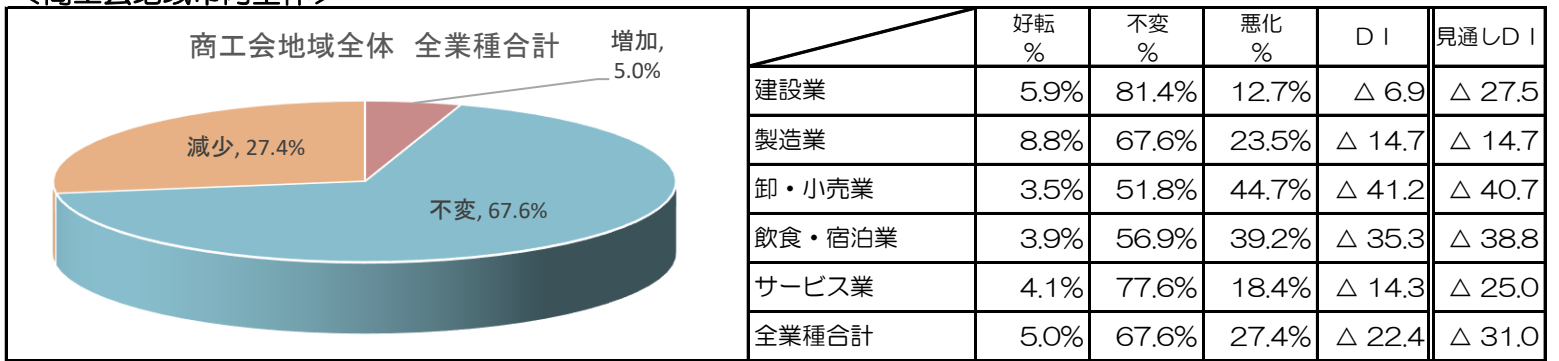
<コメント>

松代地区の「販売単価」に対する回答は、全業種合計で△25.0ポイントとなり、前期調査に比べマイナス幅が拡大している。業種別では、建設業に改善がみられるものの、卸・小売業、製造業では、マイナス幅が拡大し、特に卸・小売業のマイナスが大きい。来期の見通しにおいても状況はあまり変わらないと見ているようである。

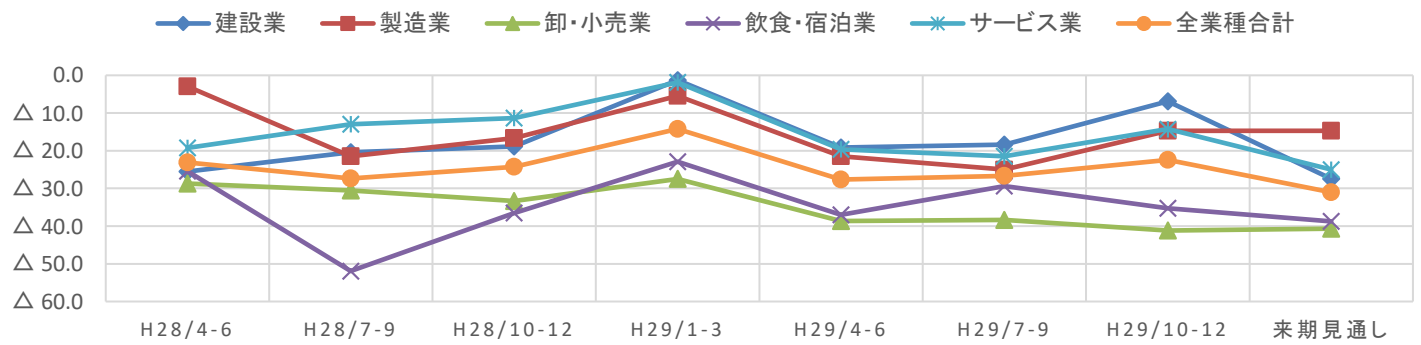
5. 資金繰りについて

・10月～12月の資金繰りは前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



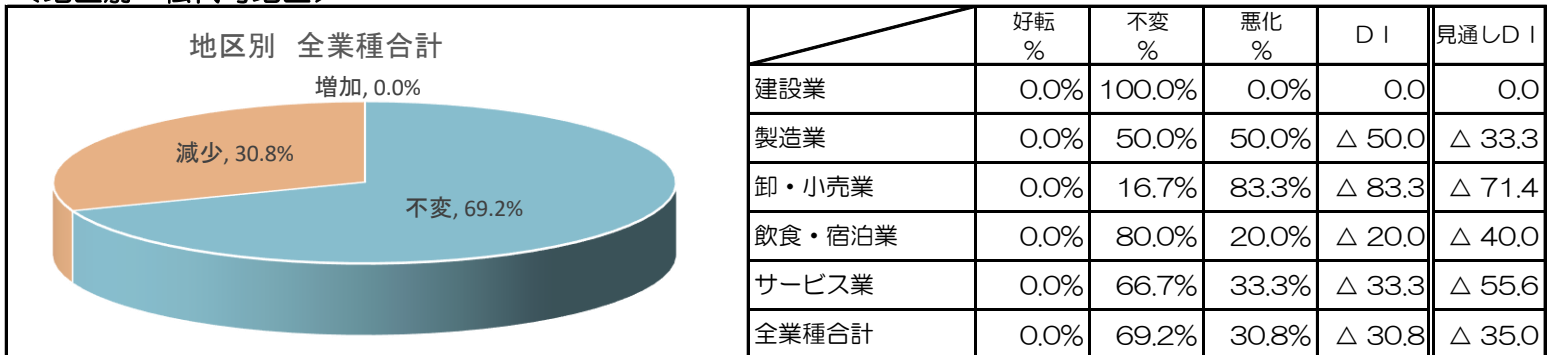
業種別資金繰りの推移(市内全体)



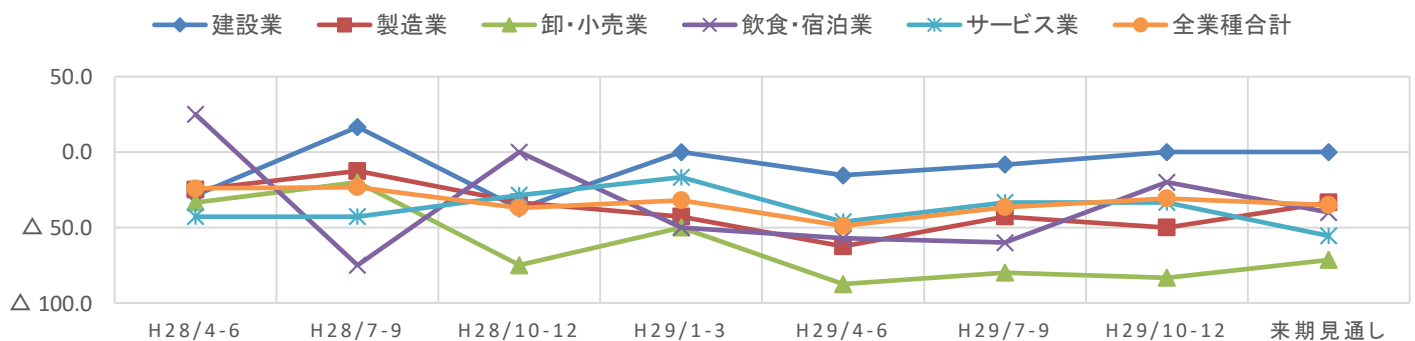
<コメント>

資金繰りは、前年同期と比較して、全業種で不変基調であるが、22.4ポイント悪化。依然として、卸・小売業及び飲食・宿泊業の悪化が目立つ。来期見通しでも、厳しい状況は変わらない。

<地区別：松代町地区>



業種別資金繰りの推移(地区別)



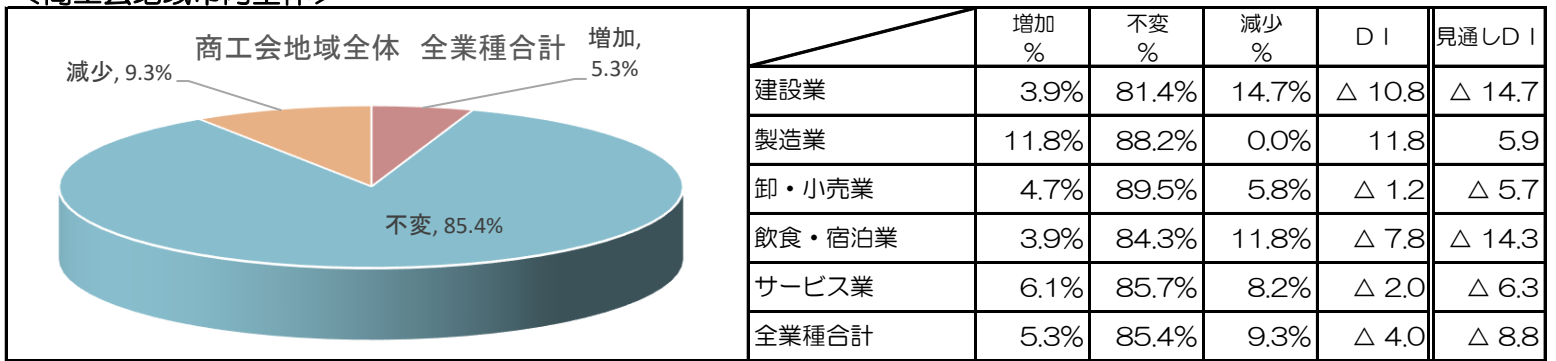
<コメント>

松代地区の「資金繰り」に対する回答は、全業種合計で△30.8ポイントとなり、前期調査に続いて「好転」の回答はゼロであった。業種別では、飲食・宿泊業でマイナス幅が縮小しているが、その他の業種はほぼ横ばいである。来期の見通しでは、飲食・宿泊業、サービス業で「悪化」が拡大傾向である。

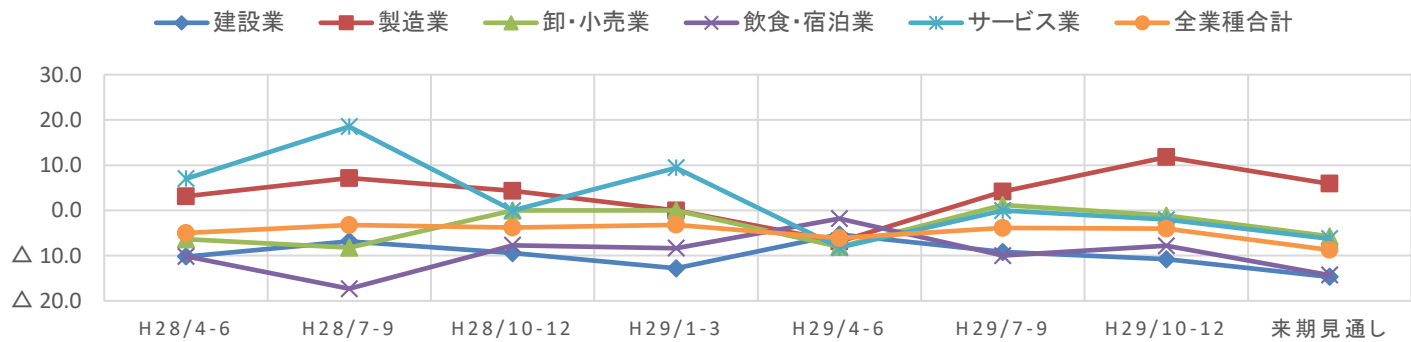
6. 従業員数について

・10月～12月の従業員数は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



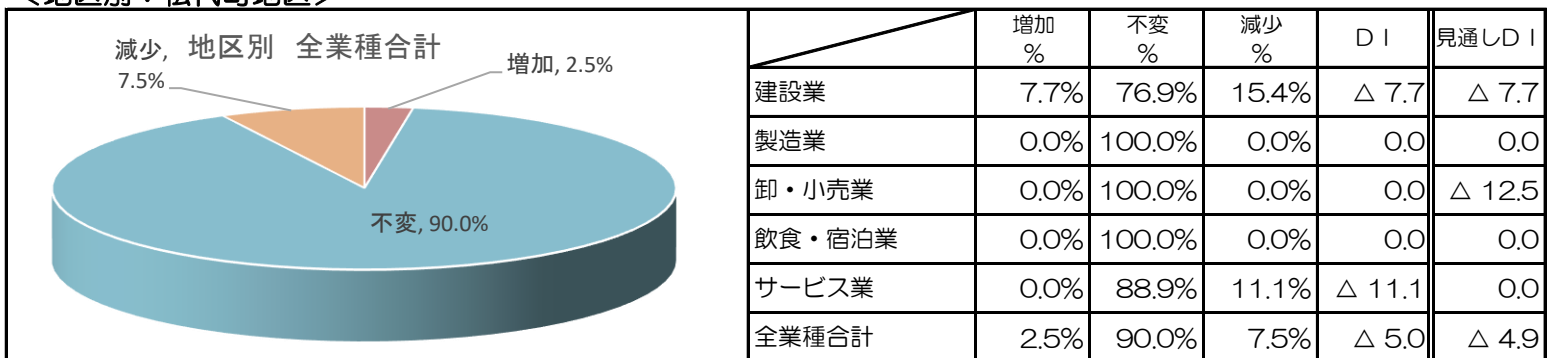
業種別従業員数の推移(市内全体)



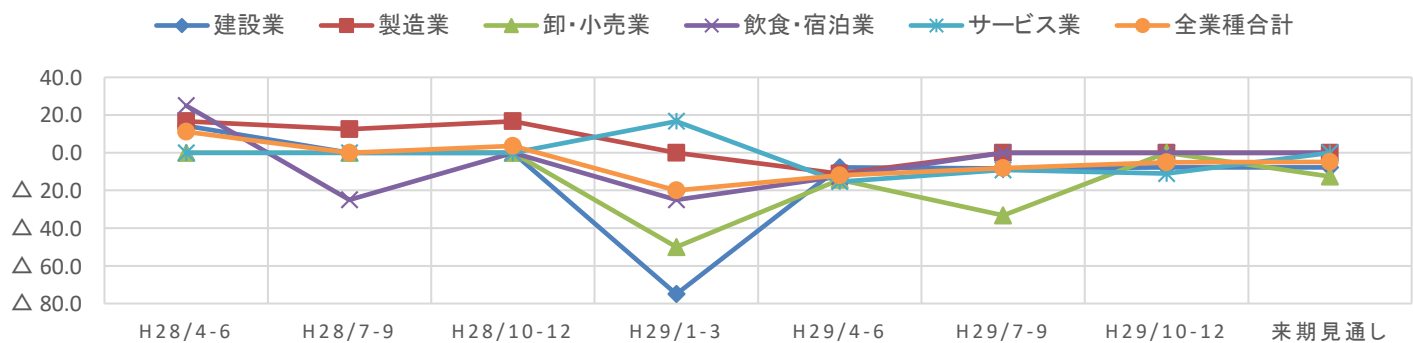
<コメント>

従業員数は、前年同期と比較して、全業種で不変基調であるが、4.0ポイント減少。但し、製造業は11.8ポイント増加した。来期見通しでも、同じような傾向である。

<地区別：松代町地区>



業種別従業員数の推移(地区別)



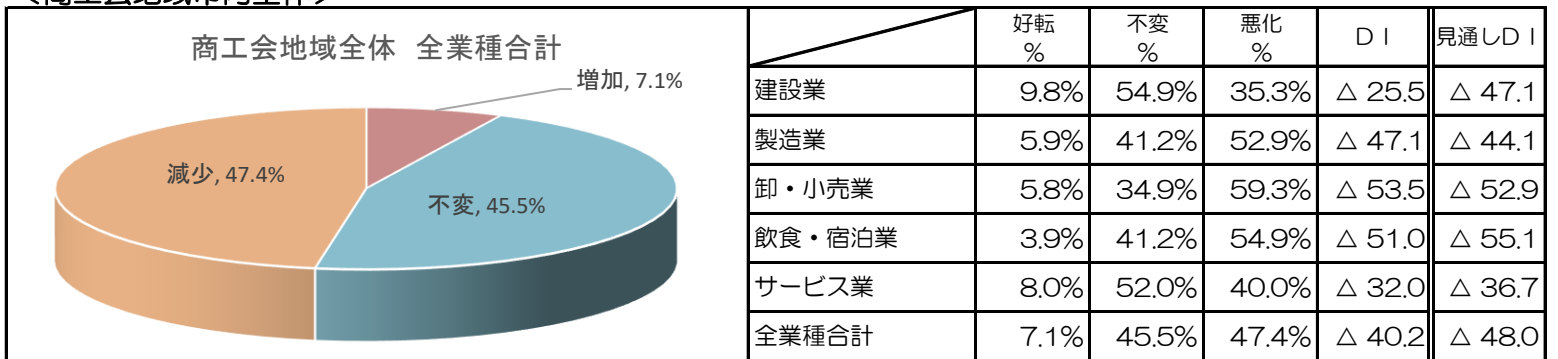
<コメント>

松代地区の「従業員数」に対する回答は、全業種を通じて「不変」という回答が多く、前期調査と比べても変化がない状況である。来期の見通しにおいてもDIに変化は見られない。

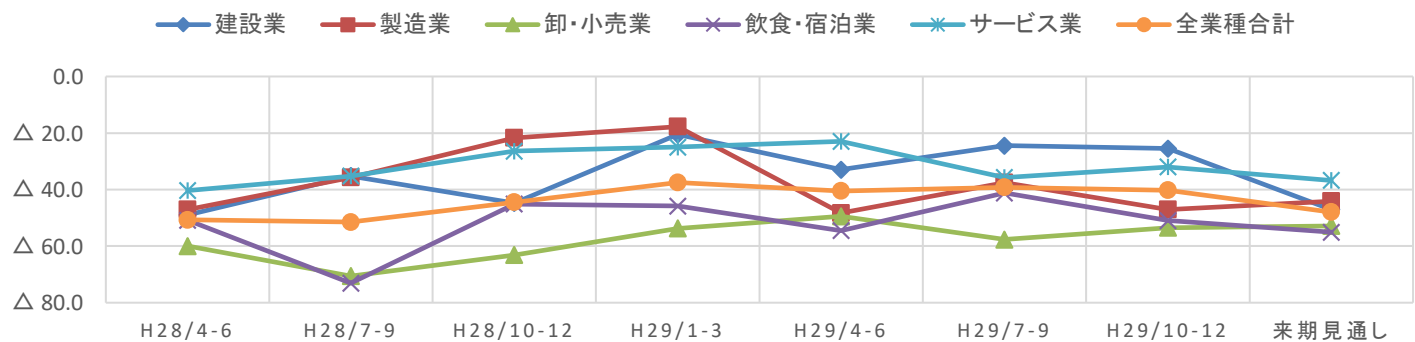
7. 景況判断について

・10月～12月の景況は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



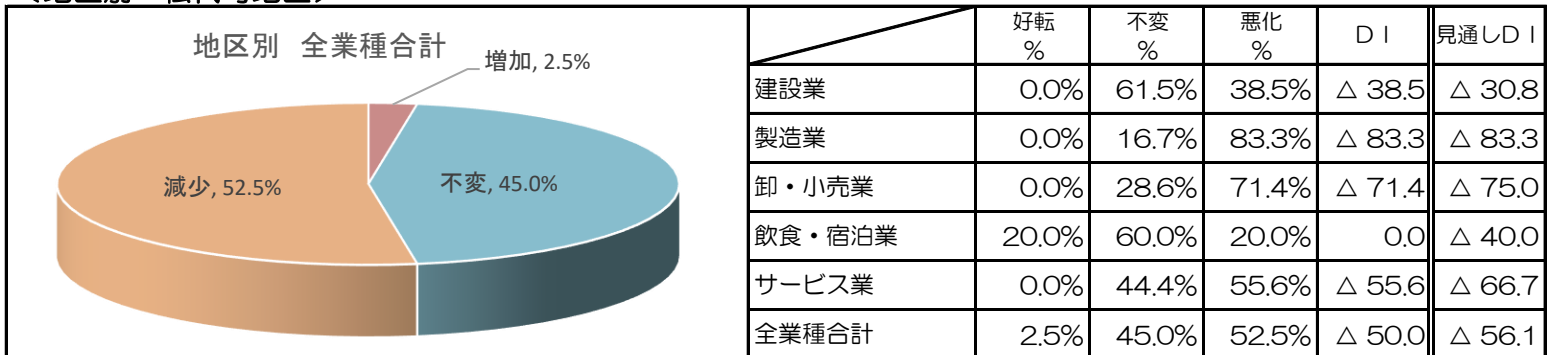
業種別景況判断の推移(市内全体)



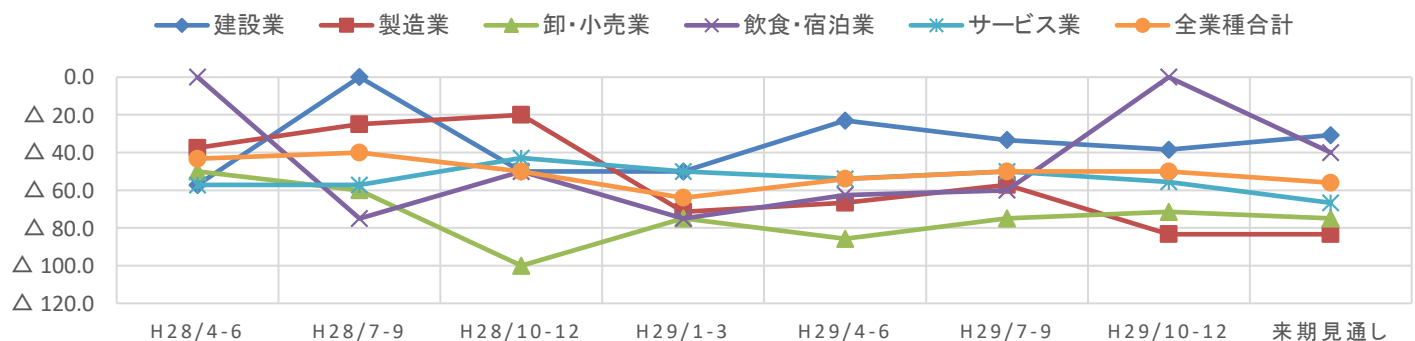
<コメント>

景況は、前年同期と比較して、全業種で40.2ポイント悪化。特に、卸・小売業と飲食・宿泊業は半数以上が悪化と回答。製造業も悪化傾向である。来期見通しは、全業種で48.0ポイント悪化予想であり、非常に厳しい見方をしている。

<地区別：松代町地区>



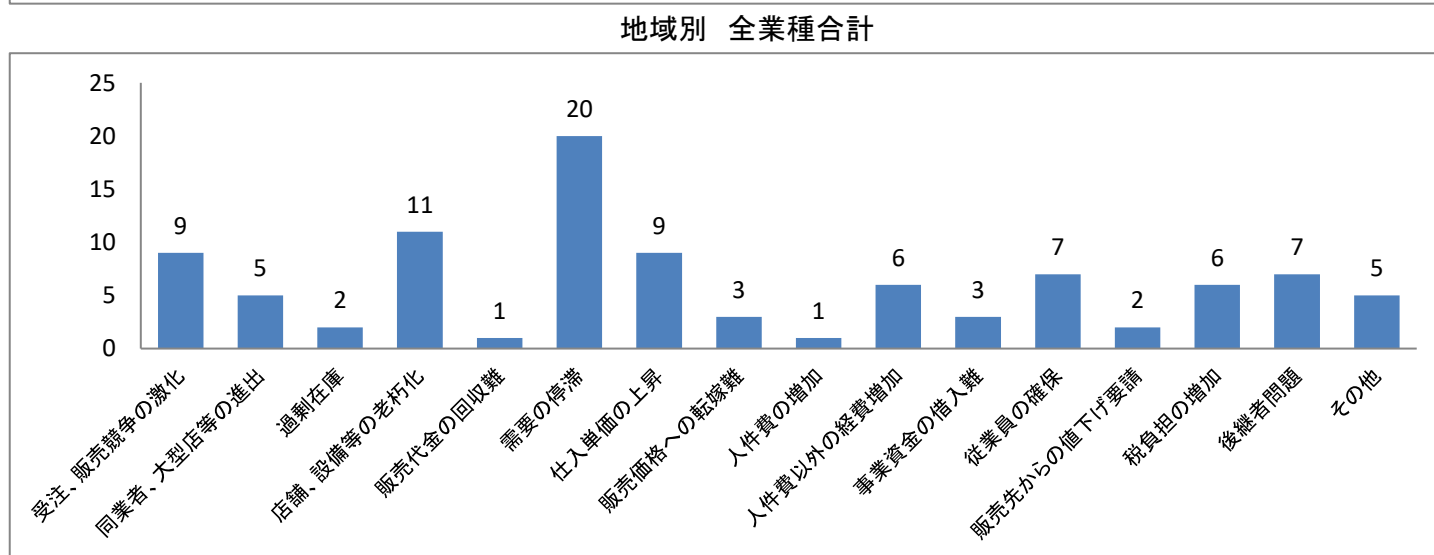
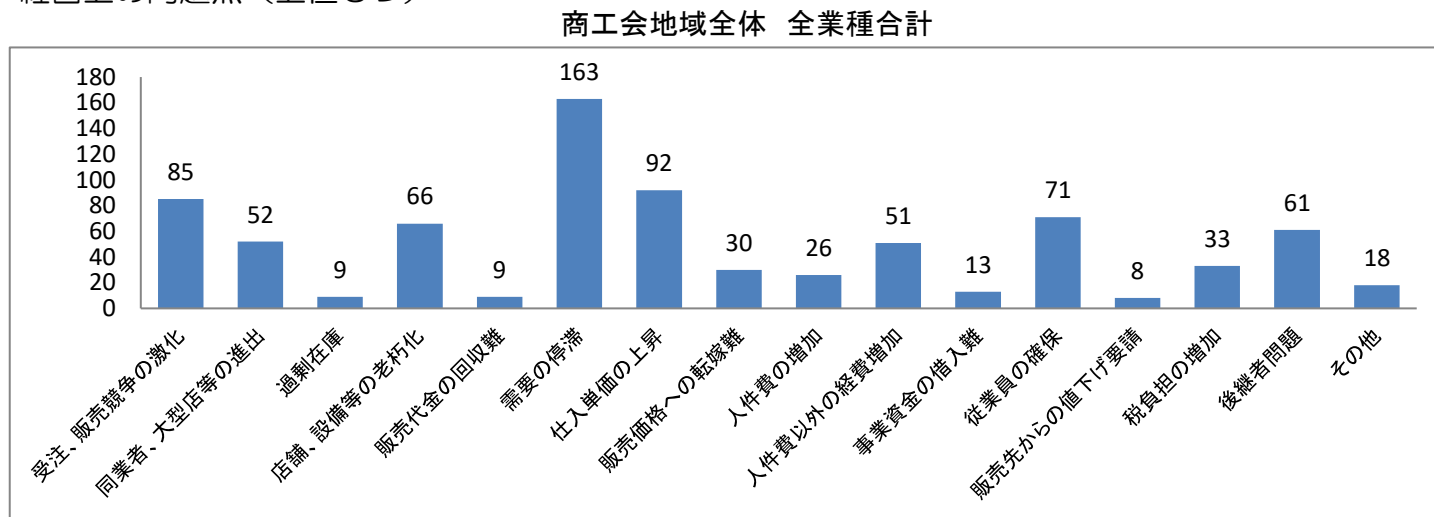
業種別景況判断の推移(地区別)



<コメント>

松代地区の「景況判断」に対する回答は、全業種合計で△50.0ポイントとなっている。業種別にみると、製造業で「悪化」傾向が拡大したのに対し、飲食・宿泊業では「悪化」と「好転」が同数となり、DIは大幅に改善している。来期の見通しでは、全体的に「悪化」傾向がやや強くなっている。

8. 経営上の問題点（上位3つ）



<コメント>

経営上の問題点、1位「需要の停滞」2位「仕入単価の上昇」3位「受注、販売競争の激化」となり、前回調査3位の「仕入単価の上昇」が上位となった。

9. 地区の景況概要

・10月～12月時点での全体概況は

【建設業】
建設業の各調査項目におけるDIは、若干の改善を示す項目もあるが、前期調査とほぼ同じ数値になっている。景況判断DIは、△38.5ポイントであり、「好転」の回答はゼロとなっているが、前期と同水準である。来期の見通しにおいても数値はほぼ同じ状況となっている。経営上の問題点では、「需要の停滞」と「従業員の確保」を上げる企業が一番多く、次いで「税負担の増加」と「後継者問題」が上げられる。

【製造業】
製造業のDIは、「仕入単価」の項目が66.7ポイント、「従業員数」の項目が0ポイント、それ以外の項目はすべてマイナスポイントとなっており、景況判断DIは△83.3ポイントと全業種を通じてマイナス幅が一番大きくなっており、「好転」の回答はゼロとなっている。来期の見通しにおいても数値は同じ状況である。経営上の問題では、「受注・販売競争の激化」と「仕入単価の上昇」が同数で一番多く、「店舗・設備の老朽化」と「需要の停滞」を上げる企業が続いている。

【卸・小売業】
卸・小売業も景況にプラスとなる項目のDIは全てマイナスポイントとなっており、景況判断DIは△71.4ポイントとなっている。回答があった全ての企業で「売上」、「採算性」、「販売(客)単価」の各項目で、「増加・好転」の回答はゼロであり、厳しさが感じられる。来期の見通しにおいても数値は同じ状況である。経営上の問題点では、「需要の停滞」を上げる企業が一番多くあり、その他は多岐にわたる項目が少しずつ上げられている。

【飲食・宿泊業】
飲食・宿泊業は、今期の調査においては各DIとも改善傾向の結果となり、景況判断DIも0ポイントと他の業種に比べ、改善傾向が一番強く伺える。但し、改善といっても好転している状況にまでにはなっていない。来期の見通しでは、「売上」と「採算性」の項目でマイナスポイントとなり、年末需要の増加と降雪期需要の減少という業界の特性によるところも出ているようである。経営上の問題点は、「需要の停滞」が一番多く、次いで「仕入単価の上昇」、「後継者問題」となっている。

【サービス業】
サービス業のDIは、前期調査とあまり変化がみられないが、各項目ともマイナスポイントが基調となっており、景況判断DIは△55.6ポイントである。全ての項目において「増加・好転・上昇」を回答した企業はゼロとなっている。来期の見通しにおいても、若干数値が悪くなる傾向が出ているがあまり変わりはない。経営上の問題点では、「需要の停滞」が一番多く、次いで「店舗・設備の老朽化」、「仕入単価の上昇」となっている。